

平成30年度 学校評価実施報告書

学校名（朱雀中学校）

教育目標

「確かな学力を身につけ、心豊かに、未来を拓く生徒を育てる」

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 「主体的・対話的で深い学びをめざした授業づくり」に取り組み、各教科とも話し合い活動を習慣化してきた。昨年度の学習確認プログラムでは、1年生・3年生は全般的に良い結果であると言えるが2年生の結果には課題が残った。各学年・各教科とも生徒にとって魅力的な授業実践になるよう、教科会を定例で実施し、授業について積極的に意見交換していきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 学校全体の雰囲気は良く、しっかりとした取組がなされていると感じている。2年生の学習状況では一部課題も残ったが、所謂「中だるみの学年」と言われる中で3年生に進級した段階で良い変化が生まれるのではないか。先生方の引き続きの努力にも期待したい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	平成29年10月24日	学校運営協議会
最終評価	平成30年 2月 19日	学校運営協議会

(1)「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

「自ら学習する力・自ら考え表現する力を身につけさせる」

具体的な取組

- 1 よんきゅう縦プロジェクトで作成した「9年間の『学び』」の系統を具現化するために、「主体的・対話的で深い学びをめざした授業づくり」のテーマのもと、小中合同の授業研究会を実施し、授業改善に取り組む。
- 2 学習計画表（「明日を切り拓く」）を作成し、教員と生徒で学習目標と学習内容の共有を図る。また、他教科の学習内容を把握することにより、カリキュラム・マネジメントをすすめる一助とする。
- 3 朱雀中ブロックで協力して、家庭での自学自習をすすめるアドバイス（しおり）を作成し、家庭学習の推進を図る。
- 4 図書館活用を推進し、読書の推進だけでなく、各教科で図書館を活用した授業をすすめ、生徒自らが課題解決学習に取り組めるように図っていく。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・ジョイントプログラム・学習確認プログラム・全国学力・学習状況調査

生徒及び保護者アンケートの結果

- ① 先生の指示や説明は分かりやすい。② 授業の進め方は適切である。
- ③ 積極的に授業に参加できている。④ 授業を受けるのが楽しみである。

中間評価

各種指標結果

3年生の全国学力・学習状況調査結果では、数学・理科が全国及び全市平均を大きく上回る結果となった。主体的・対話的で深い学びをめざした授業づくりの実践、日々の授業改善の成果が感じられる。

自己評価	分析 (成果と課題)
	ジョイントプログラム・学習確認プログラム・全国学力・学習状況調査の結果、学年・教科により差異は見られるが校内で主体的・対話的で深い学びをめざした授業づくりを推進しており、その成果が結果に結びついている。
	分析を踏まえた取組の改善
	ジョイントプログラム・学習確認プログラム・全国学力・学習状況調査の結果、特定の教科では、数値の落ち込みが見られる。教科会を充実させ、個々教職員の力量向上を図りたい。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	生徒対象の授業・生活アンケート
	<ul style="list-style-type: none">・先生の指示や説明は分かりやすい。・授業の進め方は適切である。・積極的に授業に参加できている。・授業を受けるのが楽しみである。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none">・教職員の努力により、日頃の学校生活が順調に進んでおり、学力状況調査の結果も良いものになっていると感じられる。現状に満足しないでさらなる改革を推進してほしい。 <p>(H30.10.23学校運営協議会)</p>

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

全生徒対象の授業・生活アンケートを平成31年1月実施

- ・「先生の指示や説明は分かりやすい。」「授業の進め方は適切である。」の項目については、技術家庭以外の全ての教科で肯定的な回答が95%以上であった。(学年によって違うが、いくつかの教科については、肯定的な回答が100%というものもあった。)一方、技術家庭の授業については全学年とも否定的な回答が20%近かった。
- ・「積極的に授業に参加できている。」「授業を受けるのが楽しみである。」の項目については、概ね90%程度の生徒が肯定的な回答をしたが、学年や教科によって回答に差があった。

分析 (成果と課題)

主体的、対話的な深い学びの実践を目指し、教科会や校内外の研修会を通して授業改革・改善に努めている中で、多くの生徒が授業に対して「説明がわかりやすい」「授業がたのしみ」と回答

	<p>くれたことは教師の励みに繋がると思う。しかし、特定の教科では否定的な数値が高いのも事実である。生徒が「もっと学びたい」「知識が増えて楽しい」と実感できる授業を実践するのは我々教師の責務である。回答結果は教職員も共有しているので、反省してよりより授業改善に努めたい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>授業改善に向けて、校内研究授業週間を複数回設定し、小中合同の研究授業に積極的に取り組んだ。また日常の中でも定期的に教科会を実施し、授業について積極的に意見交換している教科は、アンケート結果の数値も高く、生徒からの評価が高い。互いの授業を参観し、意見交換しながらよりよい授業実践につなげたい。</p>
	<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>日々の授業実践の中で、自ら考え表現する場面を意図的に設定している教科が増えたが、一方で従来の「教え込む」授業スタイルから変容しきれていない教科もある。教師の意識改革が更に進むように、実践例なども紹介をしながら学校全体として更に改善に努めたい。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>教職員の働き方改革について世間の関心も高いが、生徒にとって良い授業を実践すること、しっかりと学力を身につけさせることは教職員の一番の使命だと思う。時間を上手にやりくりしながら今後も研鑽に励んで欲しい。(H31年2月20日 学校運営協議会実施)</p>

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <p>「思いやりの心を育てるとともに自らを律することのできる生徒とその集団を育てる」</p>
	<p>具体的な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 <u>道徳的実践力を生徒に身につけさせるために、「道徳の時間」に限らず様々な教育活動を通して、思いやりの心をもち、自らを律することのできる生徒とその集団を形成していく。</u> 2 「道徳の時間」を一層充実させ、昨年度取り組んだ道徳の評価（試行）を活用して、生徒を「褒める・認める」ことで生徒の育ちを支援する。 3 これまでの本校の「人権学習」を、カリキュラム・マネジメントの視点から再構築する。 4 「人のために」行動することの素晴らしさを知り、そして見守り育ててくれている地域との連携をすすめ、地域に貢献できる生徒を育てる。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p>道徳授業で生徒が記入したワークシート 公開授業（道徳）の際の保護者からの意見 生徒アンケートの結果</p> <p>① 道徳の授業は、自分の生活を見直す機会となっている。 ②友達との約束は守っている。 ② ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。</p>

中間評価

各種指標結果

休日参観時に道徳の授業公開を実施。保護者アンケートでは、「ねらいを明らかにした授業が実践されている」、「発問など授業展開に工夫をしている」という項目に対して多くの肯定的な回答をいただいた。

自己評価	分析（成果と課題）
	思いやりの心をもち、自らを律することのできる生徒とその集団の形成を目指し、自分や仲間を大切にする思いやりの心を育てるために、「道徳の時間」や「人権学習」を今後も計画的に実践していきたい。
	分析を踏まえた取組の改善
	道徳的実践力を生徒に身につけさせるために、「道徳の時間」に限らず日頃の教科授業、学校行事など教育活動の中で、自らを律することのできる生徒とその集団を形成していくことを全教職員が意識して取り組んでいく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
	生徒対象の授業・生活アンケート <ul style="list-style-type: none">・道徳の授業は、自分の生活を見直す機会となっている。・友達との約束は守れている。・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none">・学校だけでなく地域・家庭を含めた日頃の大人の対応や行動が子どもたちの道徳的実践力に影響が大きいと考える。学校任せにしないで地域・家庭が協力して子どもたちの心の成長につなげたい。（H30.10.23学校運営協議会）

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

「道徳の授業は、自分の生活を見直す機会となっている。」の項目に対しては、1年生85%、2年生92%、3年生83%が肯定的な回答であった。

「友達との約束は守れている。」の項目については、回答した全生徒が肯定的な回答をした。

「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。」の項目については、1・2年生は100%近く、3年生は87%の生徒が肯定的な回答をした。

自己評価	分析（成果と課題）
	校内研修会や校外での研修会参加などを通して、道徳の授業の進め方や評価の仕方について議論を進めて実践してきた。その結果、多くの生徒が道徳の授業に対して肯定的な回答を残してくれた。
	分析を踏まえた取組の改善
	道徳の授業では、さまざまな教材を通して他者の考えを聞き、自らの意見をまとめ、議論する中で自らの気持ちを変容させている。指導者が、このポイントを見逃さず、適切な場面で褒め・認めながら自分や仲間を大切にする思いやりの心を育てたい。

	<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>生徒一人一人が、自分や仲間を大切にする思いやりの心を育てるために道徳の時間や人権学習に計画的に取り組んでいる。また道徳の時間に限らず様々な教育活動を通して、自らを律することのできる生徒とその集団を形成していくことを目標に、生徒を「褒める・認める」ことを今後も継続していきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>平成31年度から、道徳の時間が「特別の教科 道徳」として新たに位置付けられることを見据え、教科の実践について様々な努力を続けて欲しい。生徒アンケート結果からも授業に前向きに取り組んでいる様子がわかる。(H31年2月20日 学校運営協議会実施)</p>

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <p>「運動することを通して、仲間と力を合わせて頑張る喜びを知るとともに、最後までやり通す態度を育てる」「健康管理の大切さや自分自身の身の安全を守るための態度を養う」</p>
<p>具体的な取組</p> <p>1 <u>体育学習および運動部活動、また地域の体育的行事を通して、積極的・主体的に運動に取り組み、生涯にわたってスポーツを楽しむ生徒を育てる。</u></p> <p>2 健康管理の大切さを理解して、学校生活を充実させるための望ましい生活習慣を身につけた生徒を育てる。また、人権学習とも関連させて、自分自身の身を守れる生徒を育てる。</p> <p>3 社会に潜む危険から自分を守れる行動がとれるなど、自らを律することのできる生徒を育てるために、関連機関等との連携をすすめ、「薬物乱用防止教室」や「非行防止教室」、さらに様々なテーマの「避難訓練」に取り組む。</p>
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p>生徒及び保護者アンケートの結果</p> <p>① 学校行事に積極的に参加していますか。 ② 部活動に楽しく意欲的に参加していますか。</p> <p>② 地域の行事に参加している。</p>

中間評価

<p>各種指標結果</p> <p>体育大会の地域・保護者アンケートの項目、「生徒は、楽しく元気いっぱいに活動していた」に対して肯定的な意見が98%であった。</p>
<p>自己</p> <p>分析 (成果と課題)</p> <p>学校行事や部活動が単に楽しいものだけで終わらずに、その活動を通して子どもたちにつけたい</p>

評価	力を教職員が共有しながら今後も取組を進めたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>地域の運動会や12月開催予定の適応マラソンなど、積極的・主体的に運動に取り組み、生涯にわたってスポーツを楽しむ生徒を継続して育てたい。また、関係機関等との連携をすすめ、「薬物乱用防止教室」を開催し啓発に努める。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>生徒対象の授業・生活アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に積極的に参加していますか。 ・部活動に楽しく意欲的に参加していますか。 ・地域の行事に参加している。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の体育大会や地域の区民運動会では多くの子どもたちが元気に活動している様子が見られた。(H30.10.23学校運営協議会)
最終評価	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>「学校行事に積極的に参加していますか。」の項目に対しては、全学年とも90%の生徒が肯定的な回答をした。</p> <p>「地域の行事に参加している。」に対しては肯定的な回答が1年生では52%、2年生では56%、3年生では42%であった。</p>
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <p>現在取り組んでいる全ての学校行事に対して、「生徒が自己存在感を得られる場面」「共感の人間関係を構築できる場面」「生徒自らが自己決定する場面」を意識的に設定しながら実践している。行事に取り組んだ結果、生徒達が自信を高めるものとなるように今後も検証を重ねながら取組を続けたい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>今年度に限らず地域行事への参加意欲が高くならない。休日の地域行事については、部活動指導の兼ね合いもあるので解決策が難しいが、教職員からも呼びかけを一層進めたい。</p>
	<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>各種の行事については、生徒がいきいきとした表情で楽しそうにしている姿が印象的である。一方で地域行事は、休日開催が多く、部活動との関係もあり、中学生の参加が少ないことが残念であるが地域諸団体との連携を強化していきたい。</p>

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	地域行事に中学生が参加している様子を目にするが、アンケート結果からは、まだまだ数値が低いことが確認できた。地域でも参加について呼びかけを行いたい。 (H31年2月20日 学校運営協議会実施)

(4) 学校独自の取組

重点目標
生徒の自己指導力を高める
具体的な取組
学力向上にも密接な関係のある「生徒の自己指導力を高める」為に、教職員は常に生徒たちの「長所」を視点として全ての教育活動に取り組む。また、あらゆる教育活動の中で、自己存在感の得られる場・共感的人間関係を構築できる場・生徒自身が自己決定できる場を設定する。
(取組結果を検証する) 各種指標
生徒及び保護者アンケートの結果
① 自分にはよいところがあると思う。 ② 学校のルールを守って、学校生活を送っている。 ③ 学校は楽しい。

中間評価

自己 評 価	各種指標結果
	全国学力調査（3年生）生徒質問紙結果では、「自分には良いところがある」「学校の規則を守っている」に対して肯定的な回答が全国平均より低い。
分析（成果と課題）	
あらゆる教育活動の中で、自己存在感の得られる場・共感的人間関係を構築できる場・生徒自身が自己決定できる場の設定を意識して取り組んでいるが、アンケート結果から生徒の自己有用感はまだ十分に高いとは言えない。	
分析を踏まえた取組の改善	
生徒の自己指導力を高める為に、教職員は引き続き生徒たちの「長所」を視点として全ての教育活動に取り組む。自己存在感の得られる場・共感的人間関係を構築できる場・生徒自身が自己決定できる場を教育活動の中で意識して設定する。	
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	
生徒対象の授業・生活アンケート	
<ul style="list-style-type: none"> 自分にはよいところがあると思う。 学校のルールを守って、学校生活を送っている。 学校は楽しい。 	
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	・学校を訪問時に、大きな声で「こんにちは」と挨拶をしてくれる生徒が多い。また、高齢者を気遣う態度を見てくれる生徒も多く嬉しく感じる。生徒達の自己有用感を高める取組を実践して、心優しい子どもたちの育成に今後も取り組んで欲しい。(H30.10.23学校運営協議会)

最終評価

自己評価	中間評価時に設定した各種指標結果
	「自分にはよいところがあると思う。」の項目については、全体のおよそ80%が肯定的な回答をした。 「学校のルールを守って、学校生活を送っている。」の項目については、ほぼ100%が肯定的な回答をした。 「学校は楽しい。」の項目については、全体のおよそ90%が肯定的な回答をした。
	分析（成果と課題） 全生徒の大多数が指標となる項目に肯定的な回答をしてくれた。客観的に見て、生徒が落ち着いた状態で学校生活を過ごしており、アンケート結果からも自己有用感を感じながら学校生活を過ごしていることがわかった。全ての指標項目が100%肯定的な回答になるよう教育実践を続けたい。
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善 新たな取組を取り入れるのではなく、従来からの取組の目的を再確認しながら、教職員が同じ意識を持って実践していきたい。
	重点目標の達成状況、次年度の課題 大多数の生徒が指標となる項目に肯定的な回答をしてくれている。全ての指標項目が100%肯定的な回答になるよう教育実践を続けたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 学校行事や地域で朱雀中学校の生徒を目にすると、表情もよく学校生活を楽しんでいる様子がわかる。アンケート結果からも教職員が丁寧に生徒に接し、生徒自身も自己有用感を感じていることが見てとれる。(H31年2月20日 学校運営協議会実施)